

キナシマサノブ 木梨昌豊 享保五年八月父彌三兵衛政平の遺知百五十石を襲ぎ、組外に列し、後定番御馬廻に轉じ、寶曆三年御作事積目となり、同九年遠慮を命ぜられ、天明五年十二月致仕して釣雲と號し、十五人扶持を受けた。時に歳七十一。後専ら茶湯・詩歌を以て物外に遊び、八十八九歳にして歿。

キナメリ 木滑 石川郡河内庄に屬する部落。

キナメリクチドメゴヨウ 木滑口留御用

寛永十七年石川郡吉野に關所を建て、前田平左衛門をして守らせしが、後木滑に移し、萬治二年平左衛門は歿して子平左衛門繼ぎ、寛文九年御免、北村八兵衛代り、十年から延寶七年まで宮永傳左衛門、同年から翌八年まで堀助左衛門之を勤め、爾後一年交代となつて連綿した。→ヨシノセキシヨ 吉野關所。

キナメリシン 木滑新 石川郡河内庄に在る部落。寛文八年幕府領となつたものと福井藩預り領瀬戸よりの出作高四十八石あつたのを没收して一村を建て、もと木滑領の内であつたから木滑新と名づけた。

キヌ 絹 加賀・能登二國に於いては、夙く織物を産したと見えて、延喜主計寮式に定める加賀の調に小鷄調・密菰調・緋帛・黄帛・椋帛・白絹があり、能登の調にも一葉綾・吳服綾・白絹が見える。鎌倉の末期には、白山比咩神社所蔵三宮古記に、正和元年三社臨時の馬上懸物として上品絹・葛布等を送進した文書がある。義經記判官北國落の條に、富樫介が辨慶の勅進に應じて、上品五十匹を奉加したとあるものは、亦この書の成つた室町期に、加賀の上品絹が有名であつたことの證

と見てよからう。されば文明中道與准后がこの國を旅行した時、『誰かもとおりそめつらんよろこびを加ふる國の絹のたてぬき。』と詠じたのは、能美郡本折地方が製絹の盛なことに、耳目を驚かさされた爲である。しかし此くの如きは能美郡のみに止らず、石川・河北二郡に於いてもその製産者多く、絹屋座があつて取締の任に當つてゐたことは、言繼卿記天文十一年正月十三日の條に、中興藩乘兵衛尉信久・宮永三郎右衛門安清が之に補任せられた狀を載せてゐるにて知られる。

キヌカハトモシゲ 絹川友重 通稱關右衛門。寛文四年初めて前田綱紀に仕へて三百石を領し、大小將組御馬役となり、延寶九年御馬廻組に轉じ、貞享元年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

キヌカハハルマサ 絹川温當 通稱準之助。源左衛門。貞享元年養父關右衛門友重の遺知の内二百石を襲ぎ、組外に列し、御馬役となり、享保十三年百石を加へ、十八年五月六日七十二歳を以て歿した。

キネマキ 袴巻 →モチツキ 餅搗。  
キネラジヨウ 城根尾城 →キラダケジョウ 木尾城。

キネンホウリユウ 幾年豐隆 曹洞宗の僧。紹慈堅隆に教を受け、石川郡大乘寺十代の席を繼ぎ、同郡承天寺七代を兼ね、永正三年八月二十日歿した。

キノウラ 木ノ浦 鹿島郡瀬嵐の内の小字。  
キノウラ 木ノ浦 珠洲郡折戸の内の小字。  
キノクボ 木ノ窪 羽咋郡牛首の内の小字。  
キノシタクニアキラ 木下國鑑 眞道の子。元文四年四月在京のま、加賀藩の祿二十人扶持を受けた。

キノシタコウ 木下衛 通稱卒次郎・仁平。字は君均。晴崖と號した。昌平襲に學ぶこと數年、業成つて歸り、文政二年七月御儒者に列して父の遺知を受け、七年明倫堂講師となり、嘉永五年三月歿した。時に子備、生まれに僅かに四歳であつたから、大島桃年の次子勉を養つて後を襲がしめた。

キノシタジュンアン 木下順庵 通稱平之丞。諱は貞幹、字は直夫。錦里・敏慎齋・密菰洞は皆別號である。京都の人。學を松永昌三に受け、誠見該博、天下謝まざる書なく、古今記せざる事なかつた。萬治三年十月前田綱紀に仕へて祿二百石を受け、平安に在つて子弟に教授したが、二十三年の後天和二年徵されて幕府の儒官となり、元祿十一年七十八歳にして歿した。二子あつて長を順信といひ、次を寅亮といふた。その加賀藩の士で門人の名ある者には、室鳩巢・脇田直能・原元寅その子元慶がある。明治四十二年九月十一日順庵に正四位を贈られた。

キノシタツイ 木下権 字は子賢、松岡又は庵堂と號した。通稱は權五郎、國鑑の次子である。寛政四年十月新番に班し、享和元年擢でられて明倫堂助教となり、三年祿廿五俵七人扶持を加へて六十俵七人扶持となり御儒者に列した。文化元年藩政に關し意見を上つたところ、執政の怒に觸れて家に屏居せしめられたが、十一年藩主前田齊廣命じて、その罪にあらざるを以て本職に復し、侍讀を兼ねしめた。惟舊て大島維直等と、藩學の改革に盡力し、功を以て白銀を賜うたことがある。文政元年十月廿五日年四十八を以て歿し、次

子衛家を襲いだ。

キノシタノブスケ 木下寅亮 通稱平三郎。字は汝弼・菊潭と號した。順庵の次子。天保二年順庵幕府の徵に應じて加賀藩を去つた後、前田綱紀は寅亮を疎し、順庵の家に在つて學を講ぜしめた。元祿十一年順庵歿し、その長子順信は父に先だちて死んだから、翌年寅亮は加賀藩を辭し、幕府の奥詰儒者に任ぜられた。寛保三年七月歿、齡七十七。二子寅孝・寅道があつた。

キノシタノブミチ 木下寅道 通稱新藏、後平助。寅亮の二子で順庵の孫。京に在つて享保四年十月前田綱紀に仕へ、俸二十人扶持を賜はつた。元文四年廿三歳を以て歿。

キノシタベン 木下勉 衛の養嗣子。敬堂と號し、通稱を平之介といひ、明倫堂講師となり、明治元年歿した。

キノシタヨリノブ 木下順信 字は敬簡、順庵の長子で竹軒と號した。延寶六年八月、亦加賀藩の御儒者となつて俸二十人扶持を受け、本藩に在ること五年であつたが、父と共に去つた。

キノシンホ 木ノ新保 金澤の町名。本願寺文書永祿十年十月二日附の『渡渡中麴室之座之事』と首題したもの、木之新保住人あき彦左衛門尉とあるを初見とする。もと加賀石浦庄内の村落で、石浦神社藏慶長十一年八月十日附石浦七ヶ村氏子連判狀に、木新保村澤兵衛と見え、明和二年石浦慈光院の由緒書に、『石浦郷七ヶ村之内木新保村は西町・横堤町の邊に有之處、其後倉月の郷へ引移す、唯今之木新保是也。』とある。然るにその移轉した地も追々町地となり、荒町・糸倉町・鹿町・須田